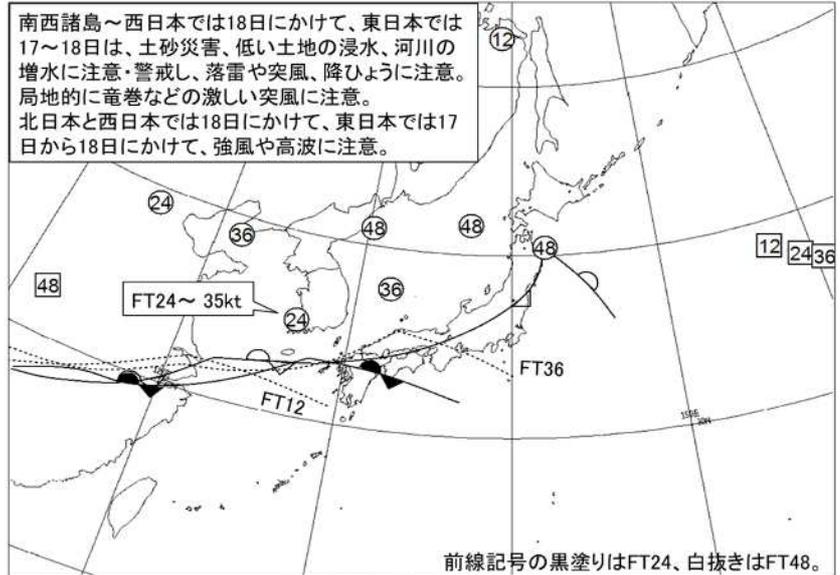


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5700m付近で -18°C 以下の寒気を伴うトラフが北海道付近を通過中。トラフ付近では、1時間5mm前後の降水を解析。また、アムール川中流には低気圧があって北東進。
- ② 500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応の前線が華中へのびている。
- ③ 日本のはるか東には高気圧があって南東へ移動、①のアムール川中流の低気圧との間で気圧の傾きが急となり、北海道地方を中心に、やや強い風が吹いている所がある。また、高気圧縁辺の暖湿流の流れ込みの影響で、南西諸島付近では局地的に激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の前線は、次第に大陸から日本付近へのびて、17日夜までに三陸沖で前線上に低気圧が発生する。前線や低気圧に向かう850hPa θ e336Kの下層暖湿気の流入で大気の状態が不安定となり、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。南西諸島～西日本では17日にかけて、東日本では17日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 500hPa 5760m付近のトラフに対応した低気圧が16日夜までに対馬海峡付近で発生し、17日夜までに日本海北部へ進み、その後、不明瞭化する。この低気圧や2項①の三陸沖の低気圧と、1項③の高気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本と西日本では18日にかけて、東日本では17日から18日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 北日本では、地上の昇温の影響で局地的に大気の状態が不安定となる所がある。東北地方では16日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 18日は、2項①の低気圧が北海道東方海上へ北上しながら不明瞭化し、前線は日本の東から本州の南岸付近を通り華中へのびて停滞する。また、日本付近では、500hPaの高度が下がり大陸から寒気が南下する。前線や低気圧に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。西～北日本の太平洋側では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意し、落雷や突風、降ひょうに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間) : 九州北部 150、九州南部 100mm。
- ② 波浪(明日まで) : 北海道・東北・関東・伊豆諸島・中国・九州北部 3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。